

リレー回想



社会教育としての

ボーイスカウト

遠藤 はるみ (野方)

ボーイスカウト立科第一団は、1971年に発団しました。発団当時のスカウト達が成人し、今やそのお子様達が立科第一団の指導者をするようになってきています。

ボーイスカウトはイギリスで発祥し、世界162ヶ国、約3千6百万人のスカウトを有し、社会に役立つ青少年を育成

する世界的組織の団体です。

私は10歳の頃に東京のガールズスカウトに入団し、成人してから指導者としてスカウティングに関わってきました。主人の仕事の都合で立科に移り住むことになり、子どもの入団を機に指導者として今年で26年になります。

ボーイスカウトは、「ちかいとあきて」の実践を基盤として訓練と教育を受けたボランティアの成人指導者のもと訓練(スカウティング)を行います。スカウトの個性を尊重し、集団や自然の中で自らの体験を通して学び、社会人としての資質を養っていきます。

私は、ボーイスカウトの教育法を子育てで実践し、二人の息子の自立心・生き

クラブ訪問

ときわ会

今井 正子 (野方)

こんにちは、銭太鼓の「ときわ会」です。「ときわ会」の命名は故竹重幸江さんです。会の発足は、お祝いの席のアトラクションで300人の観客を前に、縁起の良いまた元気の出る「銭太鼓」に挑戦したのがきっかけです。1年近い練習の末、『まりと殿様』『信濃の国』をドキドキ、ハラハラしながら演奏しました。「銭太鼓」は和太鼓の仲間ではなく、

出雲地方発祥の民族楽器で、バトンのような円筒形で、筒の中には5円玉(銭)が6個ずつ入っています。表面は紅白金銀で飾り「めでたい」を表現し、左右合わせ12個の銭は、12ヶ月つまり1年分の幸せを祈願します。演奏中手から離れてしまった時も「あばれ太鼓」と言い、「福を振り撒いた」と喜ばれ



る力に大いに役立ちました。長年の指導者奉仕を通して一緒に活動してきた子供達が社会に役立つ成人となり、彼らの成長を見守ることができ喜びを感じております。

ボーイスカウト活動を通して、立科の地域の皆さまのご協力をいただきながら社会に役立つ青少年を共に育成して行きたいと考えています。



ます。結成3年になり、この4月より月2回、1時間半程、1回目はプロの先生からしっかりと学び、2回目は復習をしながら「楽しく、美味しく」活動しています。また、芸能発表会や敬老会、福祉施設等で交流させていただいています。

初めての方大歓迎です。基本動作を復習しながら現在『花笠音頭』を練習中です。曲に合わせて手を動かすと脳の活性化にもつながり、練習後の口の運動と心の洗濯により若さを保っています。

皆様、お仲間になつてくれませんか。入会をお待ちしています。

●お問合せ先

岩下 (090-4757-1107) まで

編集後記

小学生ディスコドッジ大会が今年も開催された。我々公民館本部職員やスポーツ推進委員は審判をする。審判会議である方がこう言った。

「この大会は教育の場だ」と。なるほど。分館役員はチームの監督やコーチになり、子供たちにディスコの投げ方や取り方を教える。当然上手な子もいれば苦手な子もいる。苦手な子は積極的に参加できないでいるが、それはスポーツには勝ち負けがあるからだ。

失敗を恐れ、チームの負けを考えている。

自分が取りに行けばアウトになる。自分が投げてもらうにもならない。この大会を「教育の場」と考え、と、そのようなことは二の次になる。チームの技術を高めるには練習できる時間はどの分館も少ないだろう。それならディスコドッジを通して子供たちにチームの在り方や同じことに取り組む姿勢を考えさせたい。

仲間がミスをしたら励まし、自分のミスは次への糧にする。仲間の活躍を喜び、自分の活躍を共有する。

上手な子も苦手な子も楽しく過ごせる大会になってほしい。 A・Y